



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 180 号

2018 / 8

真備町アクセスマップと 清音駅無料自転車

■ RACDA と平和の樹では 7 月 28 日（土）から伯備線清音駅に、皆様からご寄付いただいた自転車を 20 台以上並べて、無料自転車の貸出しを始めた。自転車が欲しいとの現地の声を元に、当初は放置自転車の活用を検討したが、行政上の問題をクリアする時間がないと考え、中古自転車の寄付を募ることにした。

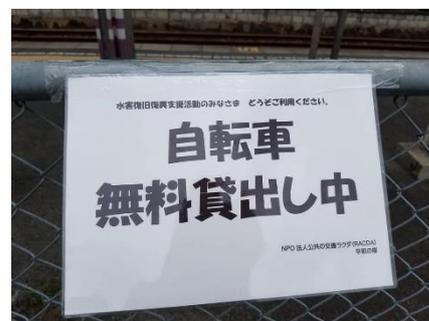
■ 4600 棟もの浸水被害では、典型的自動車社会であった真備では 1 万台ほどもの自家用車が水没したとみられ、同時に井原鉄道も電気系統をやられて 9 月まで運休。既に路線バスも廃止されていて、住民の足のコミバスも車庫が水没、当然ながら全ての自転車も水没して、徒歩以外のモビリティは壊滅した。

■ 水が引くと同時に、多くの支援者やボランティアが自家用車で真備に押しかけたため、たちまち道路は渋滞し、ボランティアバスが渋滞で到達できない事態も生じた。しかも水害後の猛暑は重労働の支援者に容赦なくのしかかり、熱中症で運ばれる方も続出した。

■ そこでラクダでは早くから、真備町と地理的に近い総社市の清音駅をボランティア拠点にして、救援のロジスティックを図れば、支援者の疲労を防ぐことが出来ると各方面に働きかけたが、倉敷市のボランティアセンターは新倉敷駅近辺に開設された。この間、いち早く出された国土地理院の浸水地図（ハザードマップと実際の浸水がほぼ一致していることが注目を浴びた）を参考にすることが出来、13 日には清音駅からの被災地アクセスマップをラクダとして公開。一方岡山市の砂川周辺の水没地域については、データが無く、アクセスマップを作成するタイミング失った。

■ 我々は、夏場の体力を奪われる作業の行き帰りは、出来ればエアコンの効いた電車バスを使って欲しいし、渋滞で自衛隊などの支援が損なわれることも危惧した。原発事故などの緊急時の避難者輸送、災害後の支援輸送の課題を本にした経緯もあり、緊急時の公共交通のあり方についても研究途上であった。

■ また今回の水害では、JR 各線の被害が深刻で、民間会社になって赤字ローカル線の維持にお金と人を使えない現状が浮き彫りにされた。さらに JR 路線が地域経済や生活にいかに重要かもクローズアップされた。東日本大震災以後、黒字の JR であっても赤字路線の災害では廃止もあり得ることを、県北 4 市はいち早く察知して動いた。また既にバス各社も運転手や車輛確保に余裕がなく、代替バスの確保にも全国からの支援が必要であり、緊急時のモビリティ確保の様々な問題が明らかになった。



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索

